

## 南半球便り（その21）：シネマ・ワールド

7月8日

「豪州と豪州人を深く理解するために読むべき本と見るべき映画を教えてください！」  
一年余り前に豪州行きが決まってから、豪州人の友人、豪州での生活経験を有する日本人を捕まえては、私が聞いてきた質問です。  
ということで、今回はいささかプライベートな話を含め、映画の話をしてください。

### 1. 原点：「ゴッド・ファーザー」

学生時代、駒場での授業の合間を縫っては渋谷の映画館に通っていた人間にとって、映画は極めて身近な存在でした。ニューヨークでの留学中、親友のイタリア系米国人から、「移民の国アメリカを知るためには、『ゴッド・ファーザー』は必見。」と言われ、グリニッジ・ビレッジの小さな映画館で三部作をぶっ続けて見たのが昨日のこのことのようにです。



ゴッドファーザー（パラマウント・ピクチャーズ、アルフラン・プロダクションズ）、  
ゴッドファーザーPART II（パラマウント・ピクチャーズ、コッポラ・カンパニー）、  
ゴッドファーザーPART III（パラマウント・ピクチャーズ、ゾエトロープ・スタジオ）  
（出典：SMAILLOG ホームページ）

### 2. 国変われば、映画変わる

それ以来、いかなる任地に行っても、その国とその国民を知るために見るべき映画を人に尋ね、時間を作っては見るようになってきました。

なかでも、英国勤務時代は見るものが実に多数あり、満喫しました。長く暗い倫敦の冬の徒然を慰める意味でも、効果的でした。

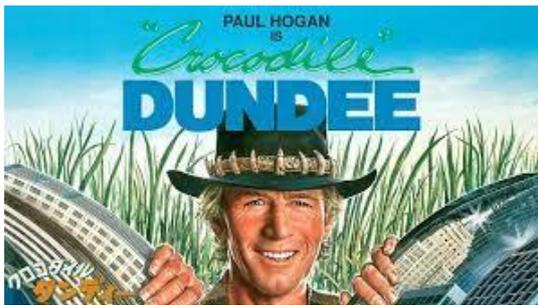
### 3. 英語の勉強

ネットフリックス全盛の今時笑われるでしょうが、私の見方は変わっています。DVDを買うか借りてきて、字幕を英語にして、じっくりと自分のペースで見ます。聞き落としたところは「巻き戻し」、気に入ったシーンは何度でも見ます。前述の「ゴッド・ファーザー」や「Love Affair」など、見た回数は10回を下らないでしょう。

実は、帰国子女経験を有さず、24歳になって初めて海外に出た私にとっては、英語の習得はとりわけ難物でした。未だに勉強の毎日で、特にヒアリングには苦勞しています。そこで、編み出したのが上記の勉強法。外務省の課長時代、後輩で米国研修に飛び立つ若者を指導した際にも、強く薦めたやり方です。

### 4. 豪州：宝の宝庫

そんな経験を経てきたので、豪州赴任に当たっても踏襲しました。特に、以前から「クロコダイル・ダンディー」、「マッド・マックス」、「ベープ」などの豪州映画に親しんできたので、敷居が低かったこともあります。



左：「クロコダイル・ダンディー」リムファイアー・フィルム（出典：dTV ホームページ）  
右：「マッド・マックス」ケネディー・ミラー・プロダクション（出典：Stereo Sound ホームページ）

蓋を開けてみると、豪州には非常に多様な映画があります。

各界の人々の推薦を受けてきた宝の山を独断で整理すると、こんな感じでしょうか？

(1) 多くの豪州人がこよなく愛する海やビーチとの関わりが印象的なもの

例：「Breath」

(2) 赤土の大地とアウトバックでのライフスタイルが印象的なもの

例：「Dressmaker」「The Dry」「Ned Kelly」「Tracks」

(3) 歴史もの

例：「Gallipoli」「Australia」

(4) アボリジニをテーマにしたもの

例：「Rabbit Proof Fence」「Sweet Country」「The Sapphires」

(5) コメディ

例：「Castle」「Muriel's Wedding」「Strictly Ballroom」「The Dish」「Kenny」

(6) ファミリー・ヒューマンドラマ

例：「Red Dog」「Penguin Bloom」「Paper Crane」「Amy」「Shine」「Storm Boy」「They're a Weird Mob」

(7) ドラッグなど、社会問題を取り上げたもの

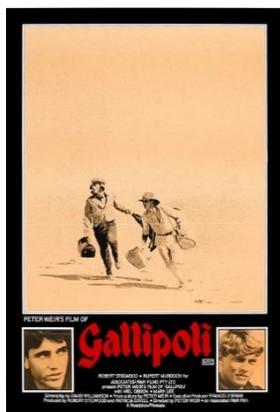
例：「Animal Kingdom」「Candy」

(8) ラブストーリー

例：「Japanese Story」

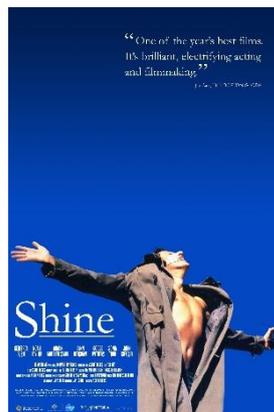
(9) ミステリー・スリラー

例：「Picnic at Hanging Rock」「Lantana」



「誓い（ガリポリ）」アソシエイテッド R&R フィルム

(出典：IMDb ホームページ)



「シャイン」サウス・オーストラリアン・フィルム・コーポレーション、フィルム・ビクトリア、オーストラリアン・フィルム・ファイナンス・コーポレーション、モーメント・タイムズ、パンドラ・シネマ、BBC フィルム

(出典：IMDb ホームページ)

## 5. 相互理解の架け橋

無論、一作2時間余りの映画では、あえてドラマティックな演出をしたり、ストーリーを単純化することが得てしてあるのは、ご案内のとおり。ですので、映画だけを見てその社会を分かった気になる訳には、到底いきません。

また、コメディ等の中には、日本人を笑いのネタにした物も散見されるので、愉快でない気分になることもあります。

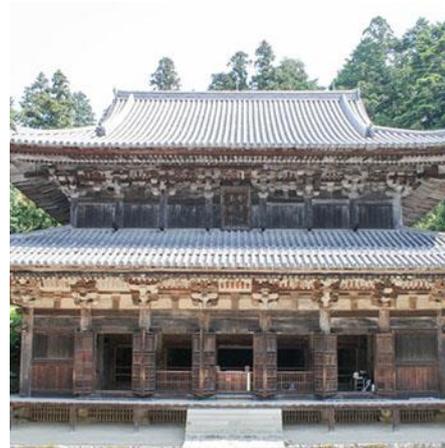
他方、豪州の人々が何に笑い何に泣くのかを知る上では、生きた格好の教材です。先日もあるスピーチでコメディ映画での台詞を引き合いに出したら、会場がワッと沸きました（スピーチ原稿は[ここ](#)でご覧いただけます。）

## 6. 日本を知るためには？

コインの裏側としてあるのは、「日本や日本人を知るために、どんな映画を見たらよいのか？」と豪州人から聞かれることです。

一昔前であれば、黒澤映画や小津映画でしょうか？公務員としては、「生きる」は必見でした。より近年であれば、「おくりびと」、「ALWAYS 三丁目の夕日」、「ラスト・サムライ」あたりでし

ようか？寅さんを見て笑って欲しいし、「男たちの大和」や「永遠の0（ゼロ）」を見て当時の日本人の心情をより深く理解して欲しいとの声も聞こえてきそうです。



左：「おくりびと」おくりびと製作委員会（出典：映画.com ホームページ）

中：「男たちの大和/YAMATO」男たちの大和/YAMATO 製作委員会（出典：Amazon ホームページ）

右：「ラストサムライ」の撮影場所となった書寫山圓教寺（出典：書寫山圓教寺ホームページ）

ちなみに、キャンベラでは、近く、ポーランド大使館と共催で、杉原千畝をテーマにした映画会を開催予定です。こうした営みを通じて、日豪の相互理解を深める努力をしていきたいと思えます。

山上信吾